

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たじまこども発達支援ルーム ぼおぼおキッズ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 4日		～ 令和8年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数) 6名	
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 4日		～ 令和8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数) 5名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日常的な環境の中で保育と療育がスムーズに引き継がれ、効率的に連携できる	・その都度、必要時に保育との情報提供、共有をしている ・保育園の行事や日々の保育予定を確認しながら、療育の時間や内容を検討している	・保育担当者も支援会議に参加していただき、支援内容や保育状況の情報共有、支援の意見交換、課題の検討を図っていきたい
2	・保護者アプリの活用により保護者の方へリアルタイムで子どもの利用の様子や活動内容の共有ができています	・文章だけではイメージできない状況を写真を添付することで分かりやすく伝えている ・それぞれの活動場面の写真を添付するようにしている ・個人情報を適切に管理し添付の間違いないよう入念に確認している	・保護者の方へ子どもの利用の様子や支援内容が多く分かるよう利用時は可能な限り毎回、写真を添付していきたい
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育園の一室に療育の部屋があるため、利用人数が多い場合は狭く感じる	・自立課題時の個別スペースの個数を確保するため、課題スペースをひろげた ・療育には不要なものがあったり、使用している棚が大きめであったり収納スペースにも限りがあるため	・療育に使用しない物品は別の場所へ移動する等スペースを確保する ・利用人数や利用児の特性を把握し、活動スペースの区切りや物品の配置等を考える
2	・保護者の方向士の交流の機会がない ・定期的な通信の発行がなく保護者の方への情報発信が少ない	・昨年7月に開所したばかりということもあり、保護者の方向士の交流できる機会を設けることができなかった ・日々の支援や記録、個別のお知らせをまず優先に業務をしてきたため、定期的な通信の発行まで手が届かなかった	・事業所や利用児童が落ち着き、支援や記録等が安定してきたら保護者の方の交流できる機会を計画していきたい ・新年度から定期的な通信の発行を計画的にしていく
3	・支援者間での情報のやり取りが十分ではない場面がある	・昨年7月に開所、9月より児童が利用となりまだ期間が浅く時間の確保が難しかったため	・児発管が主となり積極的に支援者間の打ち合わせや支援者会議をさらに増やし、情報の共有、意見の交換を積極的にはかっていきたい